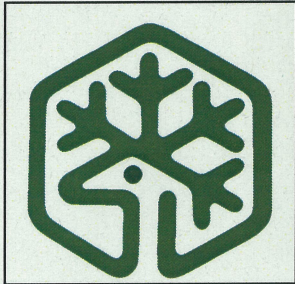


発行所
動物資料展示館
旭川市
旭山動物園
☎ 36-1104



夏期は10月22日まで無休で開園いたします。

ASAHIYAMA Zoo

ナナが旭山にきた頃から、小林さんはナナを馴致（なれさせること）をしていました。それは、病気やケガをした時に、治療を受けやすくするためや、足のリハビリのために放飼場の外を歩かせるためでした。

手づくりのゲタをはいて 園内を散歩しました



ナナは来園した時から体重をかけると、足首が内側に曲がっていたため、職員が手づくりの木製のゲタをはかせ矯正を試みていました。足の健康のために、ナナが8才になる頃までは、土や草の上を歩かせ、毎日のように裏山に散歩に出かけていました。園内では時に多くの皆さんとふれあうこともありました。

マルミミゾウのナナ



たくさんの思い出をありがとう!

旭山の26年を見守り続けたナナ
マルミミゾウのナナがやってきたのは、今から26年前のこと。ちょうど皆さんのお父さんお母さんが皆さんたちくらいの時でしょうか。当時ナナはおおよそ3才の仔ゾウでした。背は150cm程度、小さな小さなゾウでした。今回は、ナナが旭山にやってきた頃から長年にわたって飼育してきた小林さんのお話を聞くことができました。

飼育係が直接薬をぬってやりました



ナナはイタズラ好きでとてもやんちゃだったといえます。そのイタズラが盛りだつた頃、ナナは寝室の扉の釘に引っかけて、自分のキバを傷つけてしまったことがありました。その傷口が、虫歯になってしまい、治療は1年以上も続けられました。ナナのキバが片方なかったのは、それが原因だったのですね。

ナナ 虫歯になる?!

え？アフリカゾウじゃなかったの?!
今となつては、ナナはマルミミゾウでおなじみでしたが、ナナが来た当時は誰もがアフリカゾウだと思っていました。しかし、体重が2トンくらいになった時期からいっそうに大きくなっていました。アフリカゾウの体重はふつう4トン程度、まだまだ成長していいはずなのに・・・
そして、改めて調べてみると、蹄の数が前足に5個、後足に4個あり、ミミの形も丸いではないですか。ナナは来園10年目頃にしてアフリカゾウの垂種（現在は別種）のマルミミゾウと判明したのです!

ナナとの思い出を振り返り、小林さんはこんなお話をしてくれました。
ある年の冬、目の見えない子どもたちが幼いナナに会いにきました。そこで案内していた小林さんは子どもたちの手をとって、「ここがゾウの目だよ、ここが耳。そして、ここがシッポ・・・」とさわらせて教えました。「わあああ」大きな歓声を上げる子どもたちは目が見えなくても、肌触りやにおい・心の目でゾウのナナをみていたことでしょう。
この時、子どもたちの感動する姿をみて、小林さんも気持ちがあつたそうです。20年以上を振り返った今でも「あれは本当によかったよ」と感慨深げでした。



教育ガイドでもナナは大活躍でした



教育ガイドでは、ナナが長い鼻を使ってエサを食べる様子などを観察することができました。枝豆1粒を鼻でつまんでたべたり、大きな白菜を鼻で抱えてみたり。器用な鼻は自由自在にエサを口に運んでいきました。このように、マルミミゾウとはどういう動物なのか、ナナは多くの人に伝えてくれました。

心待ちの日かを



当時の日誌を手に、ナナのお話を聞かせてくださいました。小林さん、ご協力ありがとうございました。

長年、親しまれてきたナナに、お悔やみのお言葉やお花・千羽鶴が送られました。どれほどナナの存在が大きかったかが、ここからもうかがい知れます。皆さんの気持ちはきっと天国のナナに伝わったことでしょう。
旭山の人気者だったナナ、今までたくさんのお話をありがとうございました。

今のところ、ゾウが旭山動物園にやってくる予定はありません。というのは、これからの動物園には、繁殖を目的にオス・メスで飼育できるような広い施設が必要なのです。また、ゾウの健康管理の面では、地面は土が適当で、木陰や水たまりなど十分な環境をつくらなければなりません。新たにゾウを迎え入れるには、いくつもの手だてが必要なのです。
ですから、旭山動物園でゾウの顔をみられるのは、しばらく後になりそうです。旭山の構想はふくらむばかり。いつの日か、旭山でゾウに会えるのを楽しみに待っていてください。

カンだけでなく、ベリな同居させたいなあ